

越美山系砂防事務所の周辺では、11月末より朝夕の冷え込みが増し、冬の到来を感じるこの頃です。冬期に積雪が予想される期間があるために、工事を行う事が出来ない現場は、年末から年明けが工期末となっております。クマタカ通信でも順次、完成した工事の情報をお伝えします。

### 事務所安全協議会 ～安全施工技術に関する発表会を行う～

平成27年度 越美山系砂防事務所安全協議会を12月9日に開催し、安全施工技術に関する研究発表会を行いました。

当協議会は、事務所管内における労働災害を防止し、工事等を安全に推進する事について、啓発を図ることを目的としております。

当日は、各々の現場において実施している、安全施工のための諸施策について、工事等を受注している請負業者の中から、13名の方々が発表されました。

その中から最優秀賞と優秀賞が選ばれ、伊藤事務所長より表彰状を授与させて頂きました(表彰された方は右上の通り)。

また、安全に対して更なる意識向上を図るため、岐阜労働局大垣労働基準監督署から若田安全衛生課長に出席いただき、建設業における労働災害の防止について講演を行って頂きました。

《表彰された発表者の方々》

- ・(株)久保田工務店 森本 充吉さん<最優秀賞>  
＝平成26年度 越美山系大谷川第3砂防堰堤道路工事
- ・西建産業(株) 堀部 真矢さん  
＝平成27年度 越美山系地谷第2砂防堰堤工事
- ・田中建設工業(株) 山口 タケルさん  
＝平成27年度 越美山系根尾川流木対策工事



森本充吉さんの研究発表の様子



表彰された発表者の方々

### 砂防堰堤完成 ＝大河原岡谷＝

本巣市根尾大河原(ねおおがわら)地先で工事を進めてきた大河原岡谷第1砂防堰堤工事(施工:(株)所組)は、土石流を捕捉し、安全に土砂や流水を下流に流下させて土砂災害を軽減する目的で、施工を行ってきました。平成26年8月の台風による災害で、国道157号が5月末まで通行止であったために工事着手が遅れ、管理用道路の施工を一部残し今年度工事が終了しました。引き続き来年度も施工を行い、全ての工事完成を目指します。



砂防堰堤・溪流保全工が完成

### 堆積土砂の撤去が完了 ＝根尾流木＝

本巣市根尾越波(ねおおっば)地先で工事を進めてきた根尾川流木対策工事(施工:田中建設工業(株))は、平成23年8月に発生した土石流により越波第3砂防堰堤の上流に異常堆積した土砂の撤去を行ってきました。今年度の工事で約1万2千m3の堆積土砂を撤去・搬出し、工事が完了しました。この工事で撤去・搬出した土砂は、東海環状自動車道の工事で使用される盛土材料として有効活用されます。



堆積土砂の撤去が完了

#### 現場技術者の声



(株)所組 監理技術者 守田 康司さん

当現場は堰堤工事、流路、橋台、等々工種が多く施工範囲の広い現場でした。施工範囲が広い為、他工種を同時施工する事が可能であれば工期短縮もでき、当初設計通り全ての工事を完了する事が出来たのですが、橋台を掘削してしまうと上流域へは進入出来ない現場状況でしたので、降雪時期等も考慮し床板、舗装等の施工を行いませんでした。何はともあれ、無事故、無災害で無事工事を完了出来た事に感謝し又、当現場に携わって頂いた全ての方々にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

#### 現場技術者の声



田中建設工業(株) 現場代理人 山口 タケルさん

本工事は、土石流により堆積した土砂を取り除くことで、砂防堰堤の機能回復を図る工事です。除石した土砂は東海環状等で利用する為、現場より約50kmの遠距離地まで運搬する必要があります。現場では不安定土砂が上流500mに渡り堆積していることから、土石流に対する安全対策を重点に行いました。また運搬作業では交通事故防止を重点項目とし、先導車の配置等その対策を行い、無事完成することができました。地域住民の方々、工事関係者に感謝するところです。

## 茅野局長が来所

今年度7月31日に就任された茅野局長が、12月15日に当事務所を訪問されました。

所内にて「地元自治体の首長とお会いした際にも、越美砂防の事業に期待していると聞いている。健康と家庭を大事にしながら、引き続き職務に取り組んでもらいたい。」など、激励を頂きました。



所内訪問の様子

## 官製談合防止の徹底に向けて

コンプライアンス強化のため、公正取引委員会事務局中部事務所の齋藤経済取引指導官を講師に招き、12月7日に講習会を開催しました。独占禁止法や官製談合防止法の概要、官製談合の防止に向けた体制や施策に関する提言などに関して、講義を頂きました。



講習会の様子

## 昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』⑩

### 徳山白谷大崩壊①

場 所：岐阜県揖斐郡徳山村《現揖斐川町》，揖斐川左支川白谷の中流右岸（本川合流点より約4.5kmの地点）

発生日：昭和40年（1965）9月14日

誘 因：台風24号の接近で活発化した秋雨前線による豪雨

崩壊土砂量：1,830,000m<sup>3</sup>

白谷は能郷白山に源を發し、南流して揖斐川に合流する流路長9.7km、平均河床勾配1/7.2、流域面積18.9km<sup>2</sup>の右支川である。流域形状は細長く、最大幅は約3kmである。流域の地質は上流域が白亜紀～古第三紀の花崗閃緑岩、徳山白谷大崩壊地を含む中～下流域は美濃帯の中～古生層で輝緑凝灰岩が主体である。

地域内には急斜面が多いため、崩壊が発生しやすく、昭和40年（1965）9月の豪雨後には、流域面積の約8%が崩壊地となっていた。この比率は、崩壊が多発した能郷白山周辺の流域の中でも最大であった。昭和40年9月の豪雨で白谷流域内に発生した多くの崩壊の中でも、徳山白谷大崩壊は突出して大規模なものであった。

崩壊発生時刻は明らかではないが、近傍の徳山小学校裏や藤橋村《現揖斐川町》東前の谷の崩壊が22時頃であることや、時間雨量（建設省《現国土交通省》徳山観測所）が21～22時に103mmのピークに達していることから、22時頃発生したものと推定される。

大崩壊地の形状は、起伏量247m、水平斜面長330m、面積75,000m<sup>2</sup>、平均崩壊深24m、平均傾斜37°であり、斜面下方に向かって幅が広がっている。崩壊地末端には大量の崩壊土砂が残っている。滑落崖の上端は標高865mで、白谷に向かって張り出した尾根の末端に位置している。

基盤の地質は泥質混在岩で、層理面と崩落方向が一致する「流れ盤」と呼ばれる構造になっている。また、この基盤岩は、傾斜75°～80°とほとんど鉛直に立った断層群によって破碎され、脆弱化している。

この崩壊は、破碎されて崩壊しやすくなった岩盤が層理面に沿って滑った地すべり性崩壊であると推定されている。集中豪雨による雨水が地表の割れ目から浸透して岩盤の剪断抵抗力を低下させたこと、および、白谷の河道の流水により斜面脚部が浸食されたことが、この崩壊の発生の直接的原因であると考えられている。

<つづく（次号は最終回です）>

出典：越美山系災害史（原文）

《 》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所

発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月



崩壊現場より下流、河道には堆積土砂

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発 行 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所  
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3  
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626  
E-mail: [ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp](mailto:ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp)